

祇園小学校 校長だより（第33号）

平成31年2月15日

# 「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

## 「早寝・早起き・朝ご飯」でリズムに乗って

リズムに乗って調子よく活動できる時とそうではない時があります。うまくスタートが切れる時とそうではない時もあります。子どもたちにも、うまくリズムに乗って調子よく活動し充実感を味わわせたいものです。朝早く起きると、朝からいろいろな活動ができ、時間を有効に活用でき、一日得をしたような気持ちになります。やはり、「早寝・早起き・朝ご飯」が大切だと思います。

## 子どもたちをネットトラブルから守るために

SNSの利用の広がりに合わせて、インターネットを通じた被害にあう子どもが急増しています。被害にあった子どもの9割がフィルタリングを設定していなかったそうです。フィルタリングでSNSなどがブロックされ、悪意のあるサイトや危険な情報に気づく力が子どもに身に付いていきます。

まずは、スマホを持たせる必要があるのかを親子でよく確認をしたうえで、持たせる場合は「保護者の責任」でフィルタリング機能を活用するとともに、子どもの利用状況についての確認もお願いいたします。

## 祇園歴史の旅（その33）「都市に不可欠な娯楽」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。「現在の国道35号は、太平洋戦争前まで『弥生座通り』と呼ばれていました。それは現在のエクラン東宝のところにあった歌舞伎芝居の常設館『弥生座』にちなむ名称でした。駅前から三浦町カトリック教会裏を通り、戸尾町トンネル横丁前を通過して市役所に至る道路は、明治初年の都市計画策定のときに設けられ、日露戦争の日本海海戦で、ロシアのバルチック艦隊を撃滅した日本艦隊の旗艦『三笠』にちなみ三笠通りと名付けられました。

それが『弥生座通り』となるのは、民衆の強い娯楽指向と、その結果として市を代表する芝居小屋がさまざまな場面で頻りに口にされたことを物語ります。この栄町から夜店にかけての一角には、佐世保座、軍港座といった芝居小屋があり、後年、大衆娯楽の王座を占める活動写真、今日の映画が世に出ると、その常設館『朝日館』が今の島瀬公園に誕生。連日大賑わいしました。

名切川に朱色のたいこ橋がかかり、その下流の島瀬橋とともに、新しい活気が生まれる地区として市民のさんざめきが絶えませんでした。弥生座通りを隔てた東側は、海軍工廠の職工さんたちが利用する佐世保会館で、後年作家として名を為す故・井上光晴氏も『会館食堂の親子丼の味は忘れられない』と述懐するほどの人気でした。

映画の全盛期を築いたのは、四国出身の安福龔（きょう）三郎、秀治郎氏の親子二代。明治33年に佐世保へ来た龔三郎氏は、たばこ、酒類販売、化粧品などを商い、映画が時代の脚光を浴び始めると有志と共に夜店に千日映劇を設け、敷島館を買収して日活館、佐世保座を東宝とするなど、佐世保映画界の発展の基礎をつくりました。

その子秀治郎氏は昭和9年に28歳で社長となり、『中央館チェーン』を育て上げました。さらに長崎、諫早、福岡、川棚にも上映館を持ち、九州屈指の映画人として知られたのです。活動写真から音が出るトーキーの映画へ。海軍さんや職工さんと、若い消費人口であられる佐世保は、明治から大正、昭和へと好不況の波が寄せては返す時代にあっても、たくましく成長して行きました。」

次回は、「信仰心に応える宗教界」と題して、各派仏教やキリスト教などをご紹介します・・・。